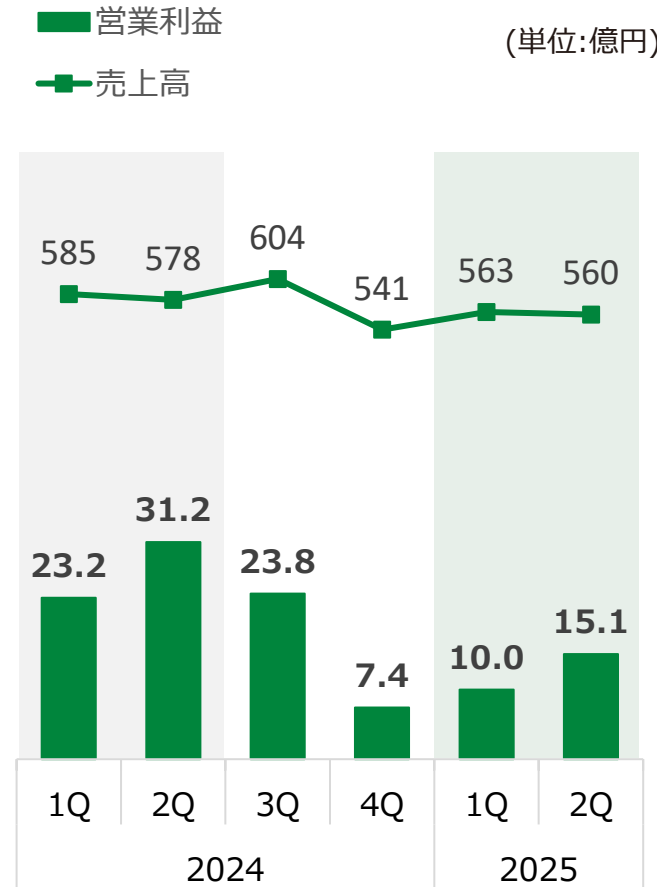


2026年3月期 第2四半期決算概況

2025年11月11日

株式会社 J-オイルミルズ
問い合わせ先：
財務部財務企画グループ Tel. 03-5148-7101

2025年度上期および2025年度業績予想サマリー



2025年度 上期実績

連結売上高は1,122億円、連結営業利益は25億円と、減収減益

- インバウンド需要の拡大と外食市場の回復に支えられ、業務用油脂の販売重量は増加したものの、ミールの販売単価低下等により減収
- 構造改革を進めたスペシャリティフード事業は収益が改善した一方で、油脂事業はコスト上昇と価格反映の遅れにより収益が大幅に悪化し、全体では減益

2025年度 業績予想

連結売上高は2,260億円、連結営業利益50億円に期初予想を下方修正

- 油脂の適正な販売価格形成を継続して進めているが、価格反映にはタイムラグが生じ、今年度中はコスト増を完全に吸収できず減益となる見通し
- 厳しい環境下でも、短期的な対応と中期的な戦略を着実に遂行し、早期の業績回復と持続的成長を可能にする企業構造を創り上げていく
- 収益回復見通しと安定配当方針に基づき、年間配当は1株70円を維持

Agenda

- 1 2025年度 第2四半期 決算概況
- 2 2025年度 業績予想と今後の取り組み
- 3 参考資料

2025年度上期 連結業績概要

(単位:億円)

	2024年度 上期実績	2025年度 上期実績	前年差	前年比
売上高	1,163.1	1,122.5	▲40.6	96.5%
営業利益	54.5	25.2	▲29.3	46.2%
経常利益	55.9	27.8	▲28.1	49.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	35.7	17.5	▲18.1	49.1%
営業利益率	4.7%	2.2%	-	-

2025年度上期 セグメント別業績

(単位:億円)

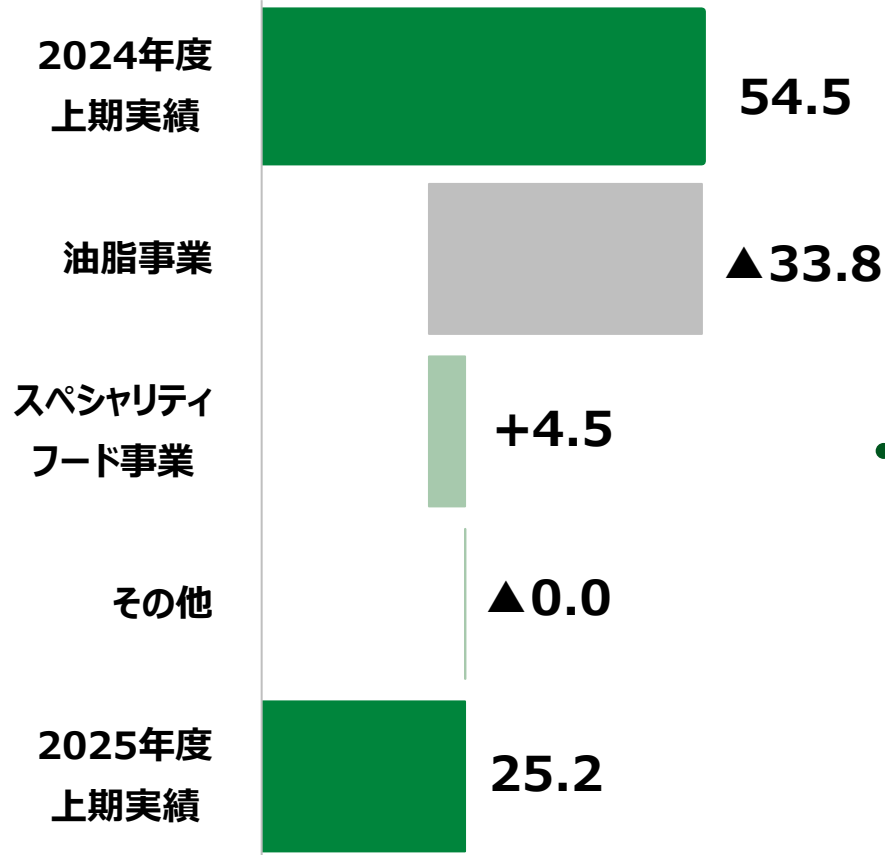
売上高	2024年度 上期実績	2025年度 上期実績		
			前年差	前年比
油脂事業	1,057.9	1,026.1	▲ 31.7	97.0%
スペシャルティフード事業	100.3	92.4	▲ 7.8	92.2%
(内乳系PBF)	51.9	54.0	+ 2.1	104.0%
(内食品素材)	48.4	38.4	▲ 9.9	79.5%
その他事業	5.0	3.9	▲ 1.0	79.1%
連結合計	1,163.1	1,122.5	▲ 40.6	96.5%

営業利益	2024年度 上期実績	2025年度 上期実績		
			前年差	前年比
油脂事業	53.3	19.5	▲ 33.8	36.7%
スペシャルティフード事業	0.2	4.7	+ 4.5	2210.3%
(内乳系PBF)	▲ 1.3	2.0	+ 3.2	-
(内食品素材)	1.5	2.7	+ 1.2	184.1%
その他事業	0.9	0.9	▲ 0.0	99.7%
連結合計	54.5	25.2	▲ 29.3	46.2%

2025年度上期 営業利益増減分析

■セグメント別 営業利益増減

(単位:億円)



油脂事業

	Net	販売価格	販売重量	原材料他
家庭用		▲1.2	+1.1	
業務用		+11.5	+2.1	
合計	▲33.8	+10.3	+3.2	▲47.3

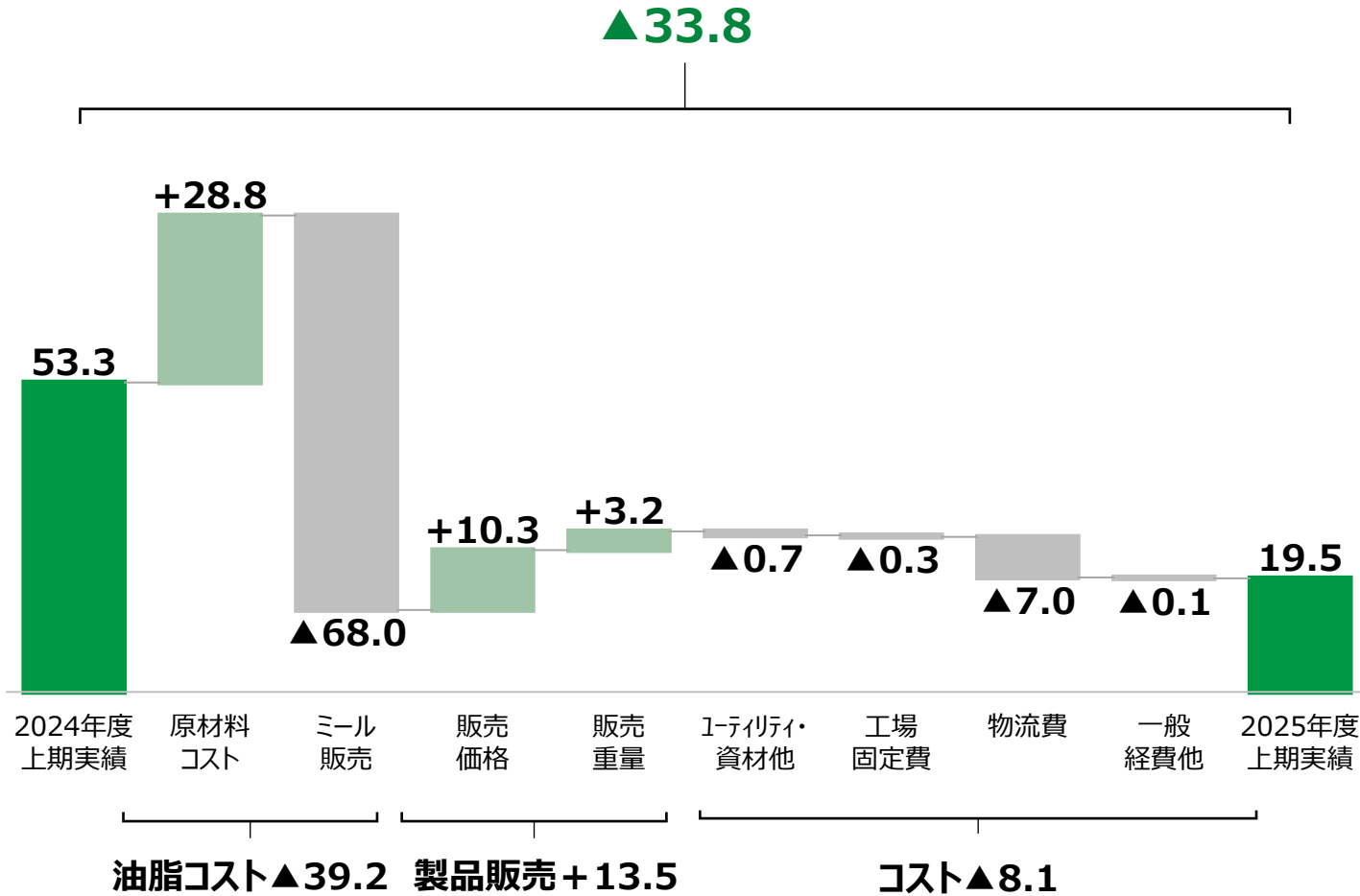
スペシャルティフード事業

	Net	販売価格	販売重量	原材料他
乳系PBF	+3.2	+6.9	▲2.5	▲1.1
食品素材	+1.2	+1.0	▲2.2	+2.4
合計	+4.5	+7.9	▲4.7	+1.2

2025年上期 営業利益増減分析

■ 油脂事業 営業利益増減

(単位:億円)



油脂コスト詳細			
原材料 コスト	+ 28.8	大豆	+ 30.7
		菜種	▲11.4
		為替	+ 11.6
		購入油	+ 6.6
		在庫影響他	▲8.7
ミール 販売	▲ 68.0	販売価格	▲68.9
		販売重量	+ 1.0

コスト詳細			
1-ティリティ・ 資材他	▲0.7	1-ティリティ	+ 1.2
		資材他	▲1.9
一般 経費他	▲0.1	人件費	+ 0.3
		広告費	+ 2.0
		販促費	+ 0.2
		その他	▲2.6

高付加価値品の状況

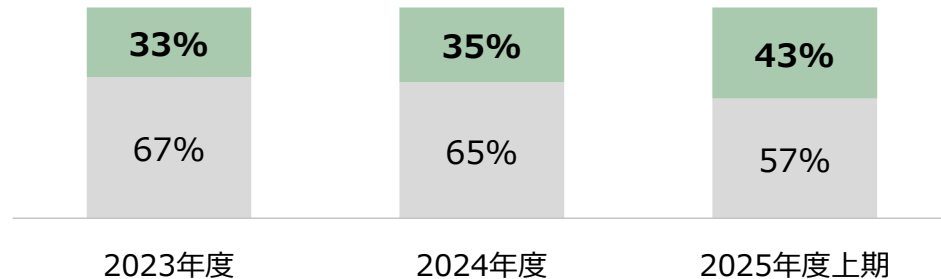
■ 高付加価値品連結売上高・粗利益

(単位：億円)

		2024年度 上期	2025年度 上期	前年比
	家庭用	93.7	91.5	97.7%
	業務用	195.1	208.1	106.7%
油脂事業		288.8	299.6	103.7%
スペシャルティ フード事業		57.6	59.0	102.5%
売上高		346.4	358.6	103.5%
粗利益		65.1	74.9	115.0%
粗利益率		18.8%	20.9%	+2.1Ppt

■ 連結粗利構成比推移

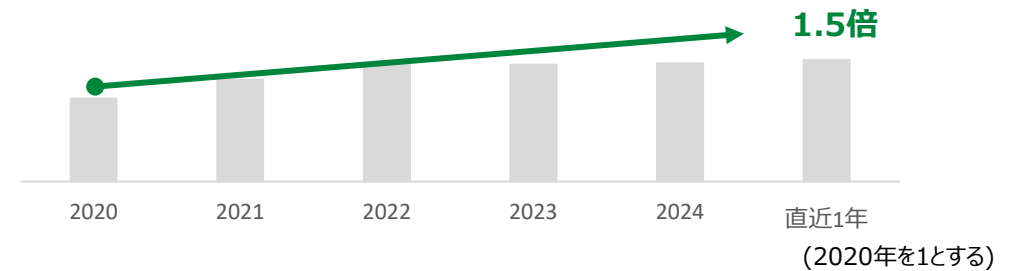
■ 汎用品 ■ 高付加価値品



■ 主な高付加価値品の売上高構成比



長持ち油SUSTEC®シリーズの販売重量推移



B/S・C/Fの状況

■ 連結貸借対照表

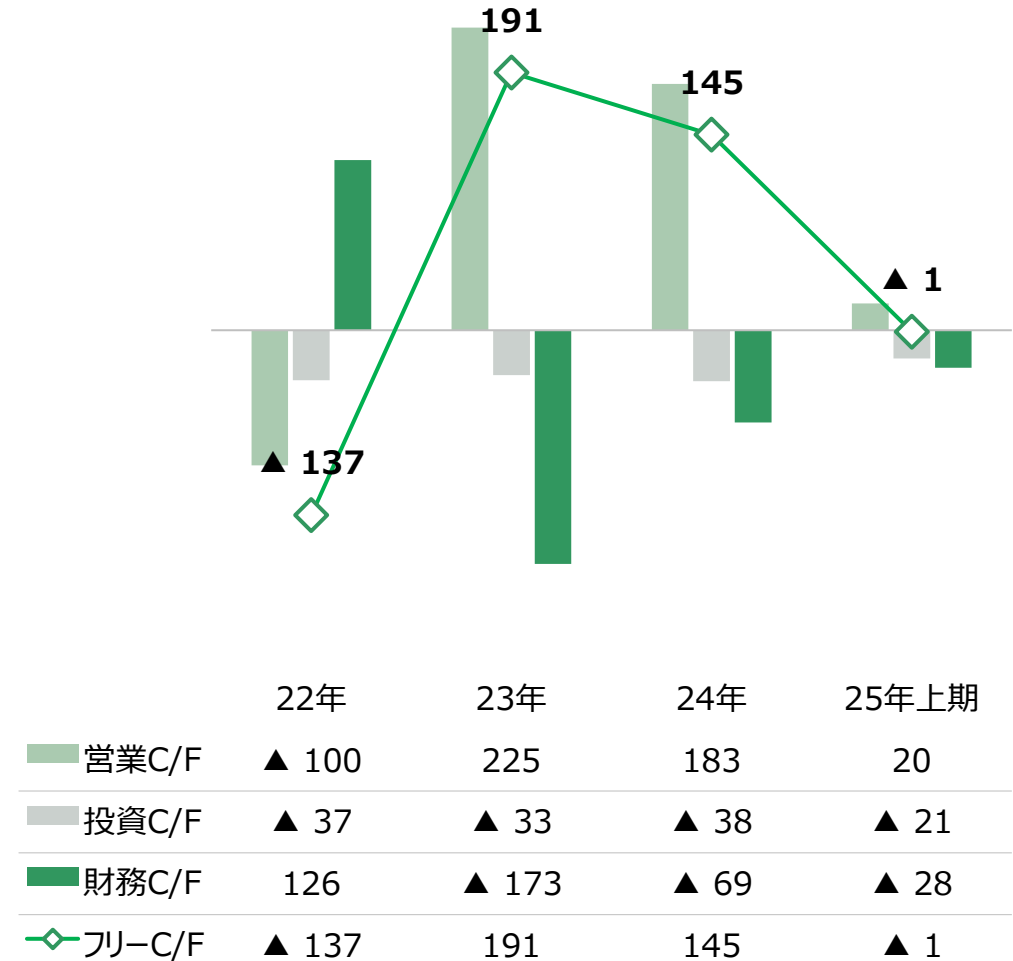
	24年期末	25年上期末	増減
流動資産	1,014	1,017	+3
現預金	120	91	▲29
売上債権	408	409	+1
棚卸資産	458	486	+28
その他	29	32	+3
固定資産/繰延資産	687	688	+1
有形・無形資産	459	456	▲3
投資その他	228	232	+4
資産 計	1,702	1,705	+4

	24年期末	25年上期末	増減
負債	639	629	▲10
仕入債務	150	178	+28
有利子負債※	242	229	▲14
引当金	45	40	▲5
その他	201	182	▲19
純資産	1,063	1,077	+14
株主資本	1,002	1,007	+5
包括利益他	56	65	+9
非支配株主持分	5	5	▲0
負債・純資産 計	1,702	1,705	+4

※有利子負債・・・社債と借入金の合計値を使用

■ キャッシュフロー

(単位:億円)



Agenda

- 1 2025年度 第2四半期 決算概況
- 2 2025年度 業績予想と今後の取り組み
- 3 参考資料

2025年度 連結業績予想

■ 期初の予想から下方修正

(単位:億円)

	2024年度 実績	2025年度 修正予想	前年差	前年比	2025年 期初予想
売上高	2,307.8	2,260.0	▲47.8	97.9%	2,400.0
営業利益	85.7	50.0	▲35.7	58.3%	90.0
経常利益	100.3	61.0	▲39.3	60.8%	100.0
親会社株主に帰属 する当期純利益	70.0	41.0	▲29.0	58.6%	70.0
営業利益率	3.7%	2.2%	-	-	3.8%
ROE	6.7%	3.9%	-	-	7.0%
ROIC	4.6%	2.8%	-	-	5.0%
EPS	211.5	123.8	-	-	211.6

2025年度 セグメント別業績予想

■ 期初の予想から下方修正

(単位:億円)

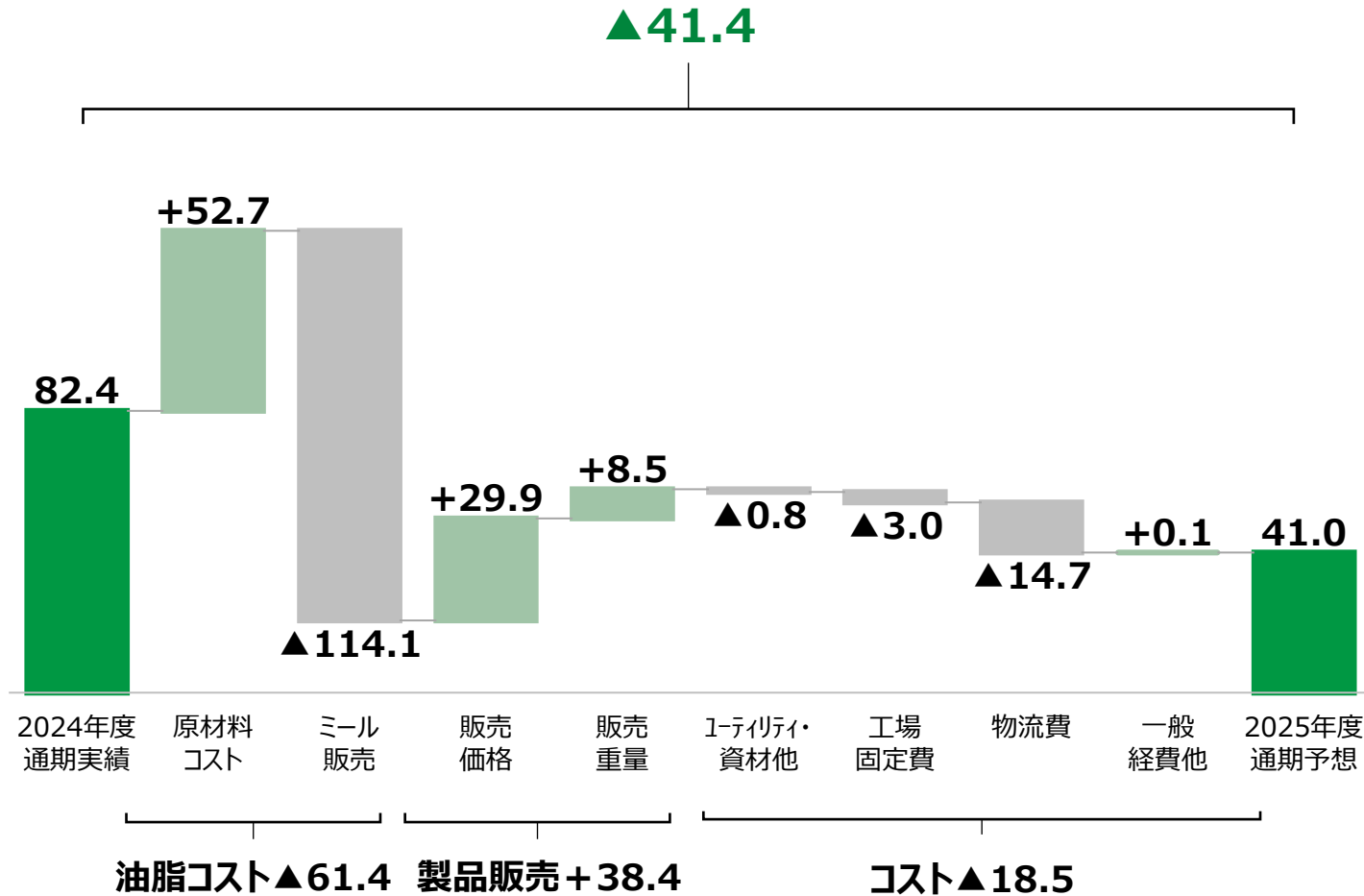
売上高	2024年度 実績	2025年度 修正予想	2025年度		2025年度 期首予想
			前年差	前年比	
油脂事業	2,092.3	2,065.0	▲27.3	98.7%	2,195.0
スペシャルティフード事業	205.7	187.0	▲18.7	90.9%	195.0
(内乳系PBF)	109.7	110.0	+0.3	100.3%	110.0
(内食品素材)	96.0	77.0	▲19.0	80.2%	85.0
その他事業	9.9	8.0	▲1.9	81.2%	10.0
連結合計	2,307.8	2,260.0	▲47.8	97.9%	2,400.0

営業利益	2024年度 実績	2025年度 修正予想	2025年度		2025年度 期首予想
			前年差	前年比	
油脂事業	82.4	41.0	▲41.4	49.7%	83.0
スペシャルティフード事業	1.4	8.0	+6.6	591.7%	6.0
(内乳系PBF)	▲0.8	4.0	+4.8	—	2.0
(内食品素材)	2.1	4.0	+1.9	186.3%	4.0
その他事業	1.9	1.0	▲0.9	51.8%	1.0
連結合計	85.7	50.0	▲35.7	58.3%	90.0

2025年通期 営業利益増減分析

■ 油脂事業 営業利益増減

(単位:億円)



油脂コスト詳細			
原材料コスト	+52.7	大豆 菜種 為替 購入油 在庫影響他	+35.1 ▲17.7 +16.7 +19.7 ▲1.2
ミール販売	▲114.1	販売価格 販売重量	▲117.0 +3.0

コスト詳細			
1-ティリティ・資材他	▲0.8	1-ティリティ 資材他	+3.0 ▲3.8
一般経費他	+0.1	人件費 広告費 販促費 その他	▲0.5 +5.0 +0.2 ▲4.6

経営環境の認識と当社対応

事業環境の悪化が見込まれる中でも、短期的な業績対応と中長期的な成長戦略を確実に実行し、企業としての社会的責任と成長を両立する

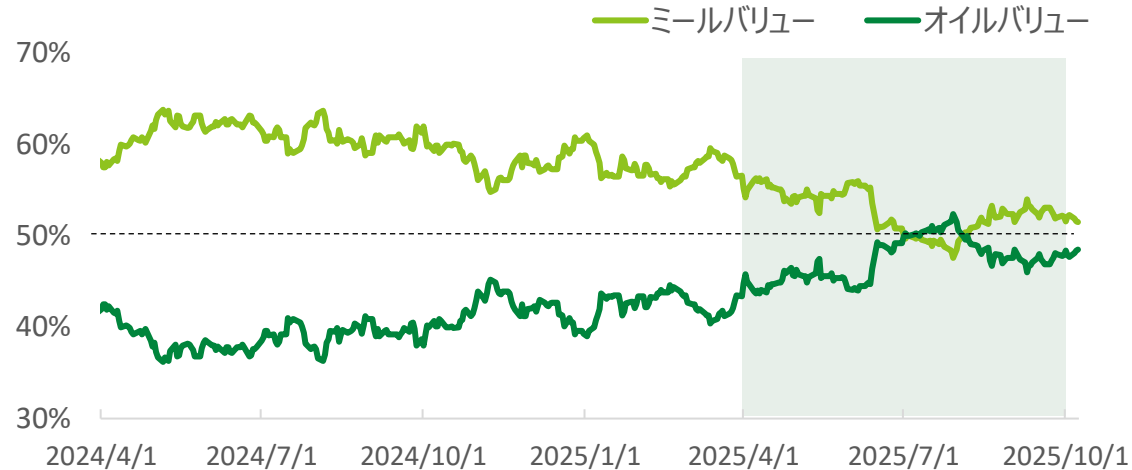
これまでの取り組みと成果	ベースラインとなる利益の底上げ 資産効率化の推進		- 不採算事業の整理や生産性の向上による収益基盤の強化 - CCCの改善、政策保有株式の売却
事業環境	事業環境の悪化に伴い、 業績回復のタイムラグが発生		- バイオ燃料需要拡大を背景に、オイルバリュー上昇、ミールバリュー低下が続く - 資材費高騰、エネルギー費の高止まり - 物流費・人件費等、社会的責任を果たすために必要なコストの継続的な増加
当社対応	短期	中長期	
	- 継続的かつ適切な価格改定の実施 - 選択と集中による製品ラインアップの最適化 - 高付加価値製品の拡販 - 生産性向上・効率化	- 油脂事業の価値最大化 - 事業ポートフォリオの高度化 - 海外展開の加速 - 次世代事業シーズの探索と投資 - 人的資本経営の推進	
→早期の業績回復と成長への回帰		→外部環境に左右されにくい、 持続的に成長できる企業へ	

早期の業績回復と成長への回帰に向けて

コスト上昇が継続する見通しの中、
持続可能な収益性の確保に向け、価値に見合った価格改定やコスト構造を追求

コスト環境

- バイオ燃料需要拡大を背景に、
オイルバリュー上昇、ミールバリュー低下が続く



- 資材費高騰・エネルギー費の高止まり
- 物流費・人件費等、社会的責任を果たすために
必要なコストの継続的な増加

短期対応

- 継続的かつ適切な価格改定の実施

改定時期	対象/改定幅・額
2025/5/1 納品分より	(1) 家庭用油脂 7%~15% (2) 業務用油脂・加工用油脂 7%~12%
2025/9/1 納品分より	2025年4月末の販売価格に対して (1) 家庭用油脂 11%~23% (2) 業務用油脂・加工用油脂 10%~18%
2026/1/15 納品分より	(1) 家庭用油脂 9%~14% (2) 業務用油脂・加工用油脂 7%~11%

- 生産性向上・効率化

- ・ 選択と集中による製品ラインアップの最適化
- ・ バリューチェーン全体を見通し、全ての業務プロセスで
徹底した生産性向上・効率化を図り、コスト削減を実施

- お客様のニーズに合わせた高付加価値品の拡販

高付加価値品の拡販：業務用油脂

「低負荷」「おいしさデザイン®」提案を推進し、
高付加価値品の構成比を高める事で収益の安定化を目指す

業務用油脂

低負荷

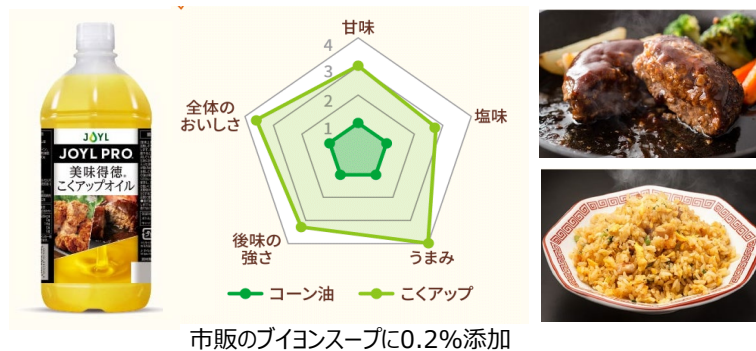
ソリューション×ITサービス提供による顧客接点の強化



- 独自技術「SUSTEC®」を用いた長持ち油「長徳®」とITを活用した「フライエコシステム®」を拡大
- 油脂劣化測定によるフライ油の使用延長支援、業務自動化でお客様の課題解決を強化
- 適切な管理と「長徳®」併用で、使用量削減と品質向上を実現

おいしさ・低負荷

ユーザの課題や潜在的ニーズに基づいた商品機能性向上とバリエーションの拡充



- JOYLPRO美味得徳®こくアップオイル発売
- 当社の特殊製法により甘味・塩味・うまみを底上げし、複合的なコクと後味の向上を実現
- 原材料費や人件費上昇に伴い、食肉等のコスト削減時の品質保持として活用

高付加価値品の拡販：家庭用油脂

「機能」「容量」「容器」など消費者ニーズに即した商品ラインアップの拡充
高付加価値品の市場拡大に向けた商品戦略の実施

家庭用油脂

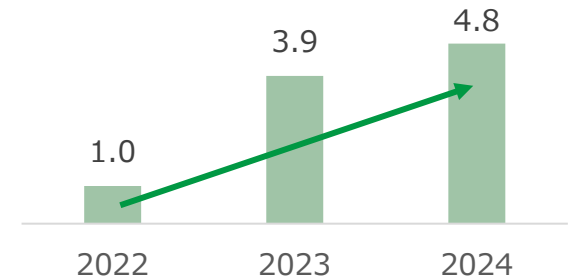
おいしさ・
低負荷

オリーブオイルスマートグリーンパックの拡大



- 発売以来好調に販売重量を伸ばしているSGPにおいて小容量帯のオリーブオイル300 g 発売
- 原料高騰で縮小傾向であったオリーブオイル市場に対し、コラボやレシピ提案で需要創出・市場拡大を推進

オリーブオイルスマートグリーンパック
販売重量推移
(2022年を1とした場合の指数)



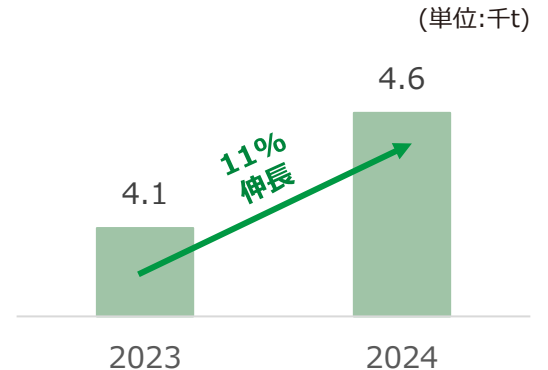
健康

サプリメントオイルカテゴリーの強化



- 「AJINOMOTO MCTオイル」
消費者ニーズに対応したMCTオイル90g, 320g発売
- 「AJINOMOTO 毎日アミノ油」
日本初、α-リノレン酸での「肌」の「機能性表示食品」である「AJINOMOTO 毎日アミノ油」を拡販
- 健康志向の高まりを背景に、サプリメントオイル市場へ新商品投入と機能訴求でマーケティングを強化し、拡大を図る

サプリメントオイル 2023年4月～2025年3月
市場規模推移（重量・当社推計）



事業ポートフォリオの高度化

「おいしさデザイン®」の磨きこみと並行して

適用範囲を川上・川下・海外市場へ拡げ、新たな価値創出と事業機会の獲得を中長期的に目指す



海外展開加速への取り組み

ASEAN・北米を中心とした海外成長領域において、戦略策定・推進力の強化を目的に人員・体制を拡充
製品ラインアップ、販売網を広げ、新たな領域を開拓する

海外

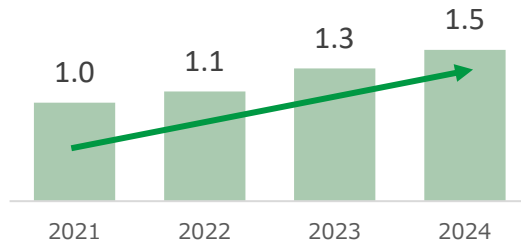
ASEAN

■ J-OIL MILLS THAILAND (JOT)

販売体制強化

現地社員増員でさらなる
売上拡大と成長機会を狙う

【JOT(連結子会社)現地通貨ベースでの売上成長】
(2021年度を1とした成長)



ターゲット市場
ASEAN

J-オイルミルズ

JOT・SSC

PF・PVO

JOYL
Joy for Life

ターゲット市場
北米

おいしさデザイン®

油脂

スターチ

油脂加工品

北米

■ Ajinomoto Health & Nutrition North America, Inc. (AHN)

AHN社との協業体制確立

AHN社へ当社社員を配置し、製品ラインアップ・
販売網を広げ更なる領域拡大へ注力



国内

海外戦略策定・推進を主導する組織体制確立

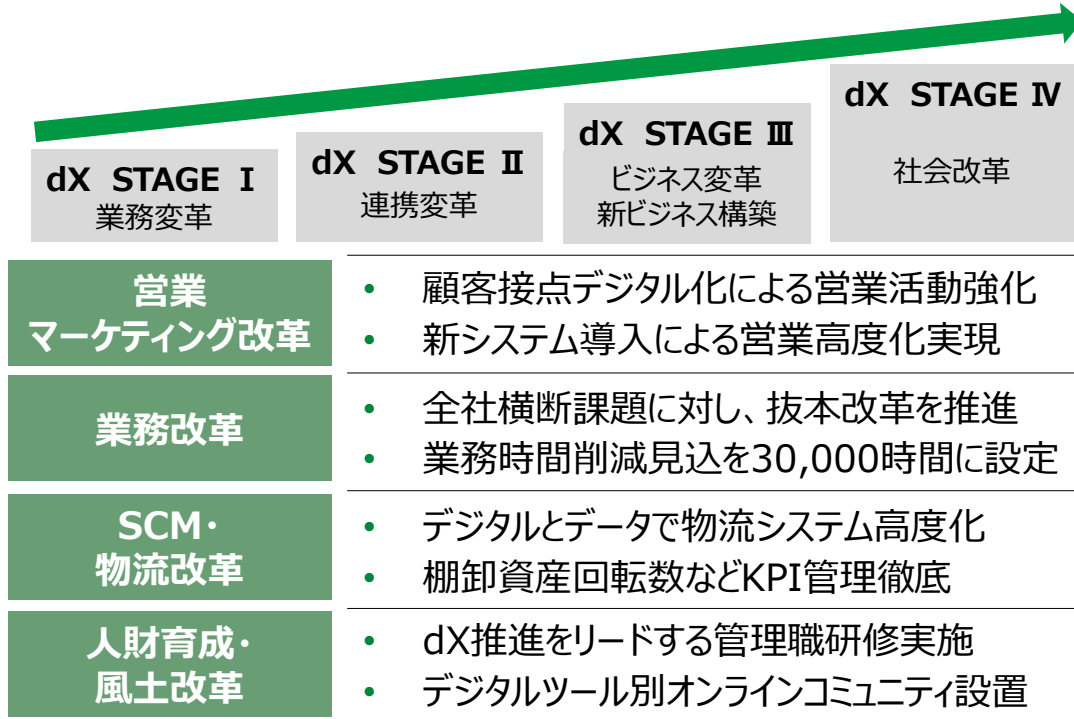
M&A・業務提携などの戦略策定・推進と、既存海外事業の成長施策の推進に役割を分担し、機動性と専門性を高める

経営基盤強化の取り組み

dXによる組織・連携の変革と人的資本経営の推進を通じて、
変革の推進力を高め、ビジョン実現へのスピードを加速

dX推進

- 組織・連携変革の重要取り組み 4 テーマを着実に遂行
- 経済産業省が定める「DX認定事業者」の認定を取得
- 下期からは、ビジネス変革のテーマアップにも着手



人的資本経営の推進

- 成長分野をリードする人財育成を強化
- 「壁を越え、共に挑み、期待を超える」チームづくりの推進

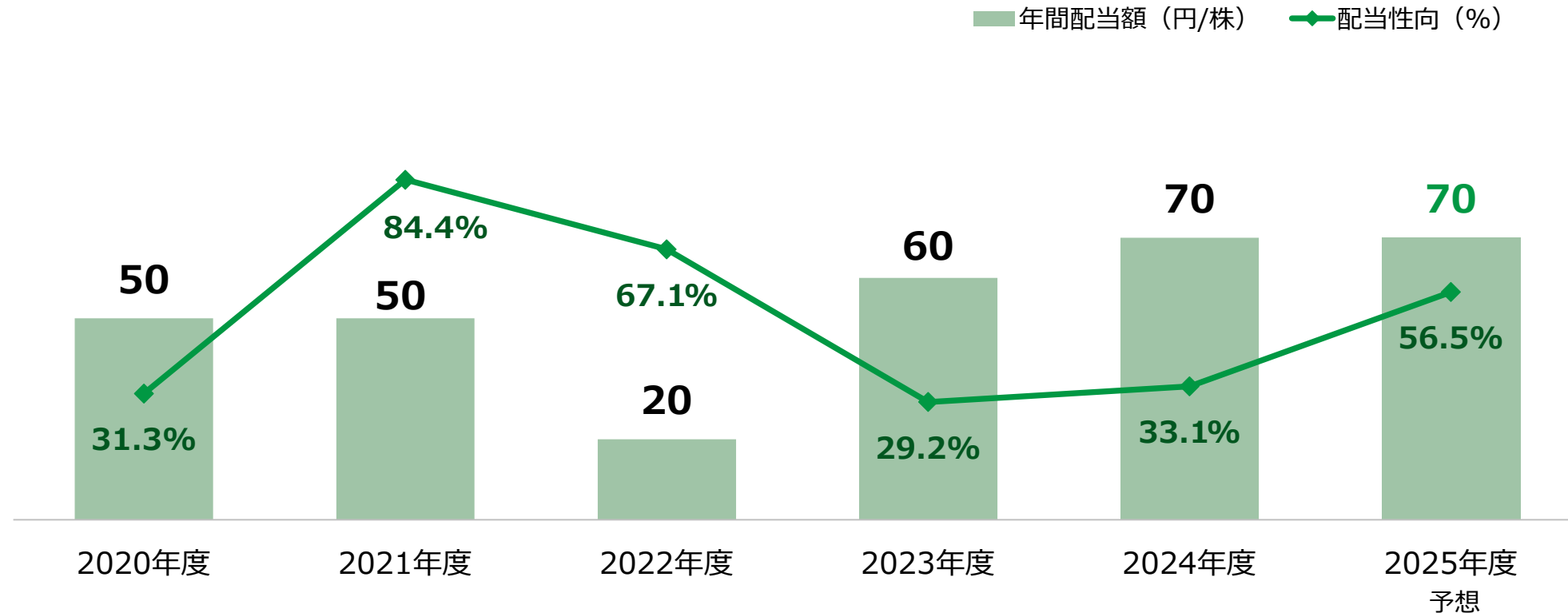
取り組みの方向性

一人ひとりの ケイパビリティの拡大	全マネジメント層の 重点強化	最適人員の 最適配置	成長を促す 環境の整備
人財育成	意識改革・ 評価力向上	組織力向上	DE&I、 能力発揮・挑戦
事業ポートフォリオ	事業企画と新規事業推進人財プールの充実		
営業・マーケティング	営業・マーケティング機能の高度化		
海外事業推進	海外推進組織の強化 海外駐在員の増員 国内における海外対応要員育成		
経営基盤の強化	次世代経営人財プールの強化 コーポレート機能の高度化		

株主還元

足元の業績は厳しい状況にあるものの、
将来の収益力回復への見通しと安定配当の方針に基づき、年間配当70円維持

配当の状況



Agenda

- 1 2025年度 第2四半期 決算概況
- 2 2025年度 業績予想と今後の取り組み
- 3 参考資料

バリューチェーンの持続可能性の向上、環境負荷低減への取り組み

植物油業界の持続可能な物流のための協議体 「油脂物流未来推進会議」を発足

当社含めた3社*1が一般社団法人日本植物油協会と連携し、食用油脂業界における物流問題の解決を進め、物流持続性を向上させることを目的とした協議体「油脂物流未来推進会議（通称：YBM 会議）」を発足

取り組みテーマ

- 加工食品業界、特に業務用領域を中心とした物流を取り巻く動向の把握と共有
- 新物流効率化法や自主行動計画に則った物流効率化施策の具体的検討
- 各社におけるホワイト物流を含めた物流課題改善事例の共有（発・着荷主双方）
- 物流DX、フィジカルインターネット※2に関する最新動向の収集

*1 株式会社J-オイルミルズ、日清オイログループ株式会社、昭和産業株式会社

*2 インターネット通信におけるデータの塊をパケットとして定義し、パケットのやりとりを行うための交換規約（プロトコル）を定めることにより、回線を共有した不特定多数での通信を実現する考え方を、フィジカル、つまり物流の世界に適用しようという考え方（国土交通省HPより）

日本初、リサイクル原料を用いて製造したポリアミド から食用油向け業務用容器の開発へ協業開始

ケミカルリサイクルポリアミドを用いた日本初の食用油向け業務用容器BIB*1の開発に関し、当社含めた4社*2での協業を開始。この協業により、容器包材のリサイクルの促進を目指す。



BIBが使用されている、J-オイルミルズの代表商品である業務用長持ち油「長徳®」（中央の画像は中身が見えるように段ボールを切ったもの）

*1 BIB（バッグインボックス）：プラスチックの袋を紙製の段ボール箱の中に入れた液体容器。なお、今回リサイクルの対象となるのは内袋プラスチックのみ。

*2 BASFジャパン株式会社、興人フィルム&ケミカルズ株式会社、TOPPAN株式会社、株式会社J-オイルミルズ

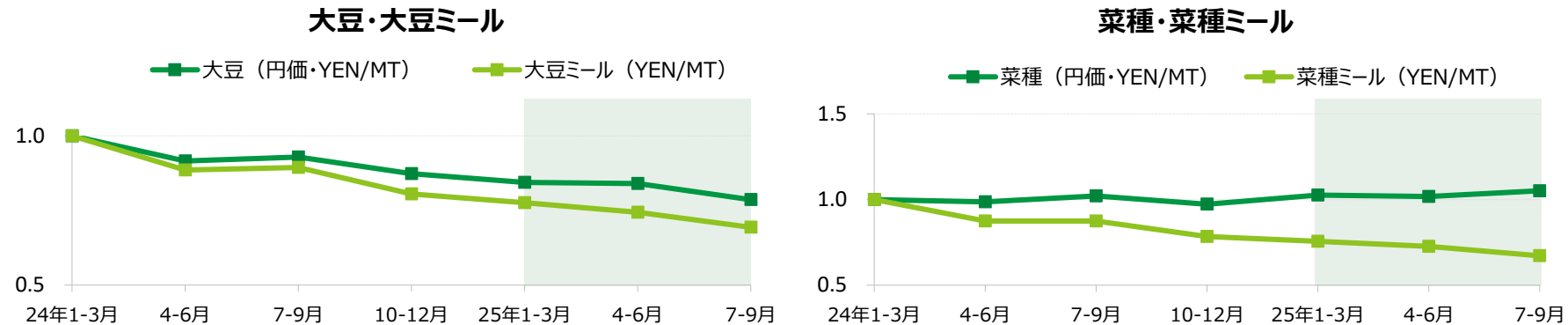
原料動向

原料・為替状況※1

	24'1Q	24'2Q	24'3Q	24'4Q	25'1Q		25'2Q		25'3Q		25'4Q	
	結果	結果	結果	結果	結果	前年差	結果	前年差	結果	前年差	直近相場	前年差
大豆 ¢/Bu※2	1,193.4	1,186.0	1,040.1	993.5	1,025.0	▲168.4	1,043.7	▲142.4	1,012.4	▲27.6	1016.8	▲23.3
菜種C\$/MT※3	608.1	631.6	601.2	614.6	627.3	+19.1	693.2	+61.6	659.2	+58.0	613.0	▲1.5
ミール1-%	59.8	61.5	60.7	58.3	57.5	▲2.3	54.2	▲7.3	51.1	▲9.6	51.9	▲6.5
海上運賃us\$/t※4	68.9	65.9	62.2	54.5	50.0	▲18.9	46.9	▲18.9	58.1	▲4.1	59.0	+4.5
為替レート円/us\$※5	149.4	156.9	150.6	153.4	153.7	+4.3	145.6	▲11.2	148.5	▲2.1	151.8	▲1.6

※1: 搾油原料の買付けは基本的に約3カ月前の時点にて行っており、本図では各期の業績に影響のある期間相場の平均値を示しています
※2: シカゴ相場 ※3: ウィネペグ相場 ※4: US Gulf-Japan PANAMAX ※5: 為替TTSレート

原料価格推移



※2024年3月を1として算出

2025年度上期 営業利益増減分析詳細

営業利益 前年比較

(単位:億円)

	2024年度 上期	2025年度 上期	対前年 増減額	詳細
油脂事業	53.3	19.5	▲33.8	
家庭用				販売価格: ▲1.2、販売重量: +1.1
業務用				販売価格: +11.5、販売重量: +2.1
スペシャルティフード事業	0.2	4.7	+4.5	
乳系PBF	▲1.3	2.0	+3.2	販売価格: +6.9、販売重量: ▲2.5
食品素材	1.5	2.7	+1.2	販売価格: +1.0、販売重量: ▲2.2
その他	0.9	0.9	▲0.0	
総計	54.5	25.2	▲29.3	

■ 油脂事業 営業利益増減分析詳細

	対前年 増減額	詳細
製品販売	+13.5	
販売価格	+10.3	汎用品: +0.9、高付加価値品: +9.4
販売重量	+3.2	汎用品: +1.0、高付加価値品: +2.3
参考) 高付加価値品	+11.6	家庭用: +0.6、業務用: +11.1
油脂コスト	▲39.2	
原料コスト	+28.8	大豆: +30.7、菜種: ▲11.4、為替: +11.6、購入油: +6.6、在庫影響他: ▲8.7
ミール販売	▲68.0	販売価格: ▲68.9、販売重量: +1.0
その他コスト	▲8.1	
1-ティリティ・資材他	▲0.7	1-ティリティ: +1.2、資材他: ▲1.9
工場固定費	▲0.3	
物流費	▲7.0	
一般経費他	▲0.1	人件費: +0.3、広告費: +2.0、販売促進費: +0.2、その他: ▲2.6
油脂事業	▲33.8	

*為替（期中平均レート）
24年度上期:150円/1ドル
25年度上期:148円/1ドル

2025年度業績予想 営業利益増減分析詳細

営業利益 前年比較

(単位:億円)

	2024年度	2025年度 通期予想	対前年 増減額	詳細
油脂事業	82.4	41.0	▲41.4	
家庭用				販売価格: ▲14.1、販売重量: +5.8
業務用				販売価格: +44.0 販売重量: +2.7
スペシャルティフード事業	1.4	8.0	+6.6	
乳系PBF	▲0.8	4.0	+4.8	販売価格+11.9:、販売重量: ▲4.7
食品素材	2.1	4.0	+1.9	販売価格: +0.6、販売重量: ▲5.7
その他	1.9	1.0	▲0.9	
総計	85.7	50.0	▲35.7	

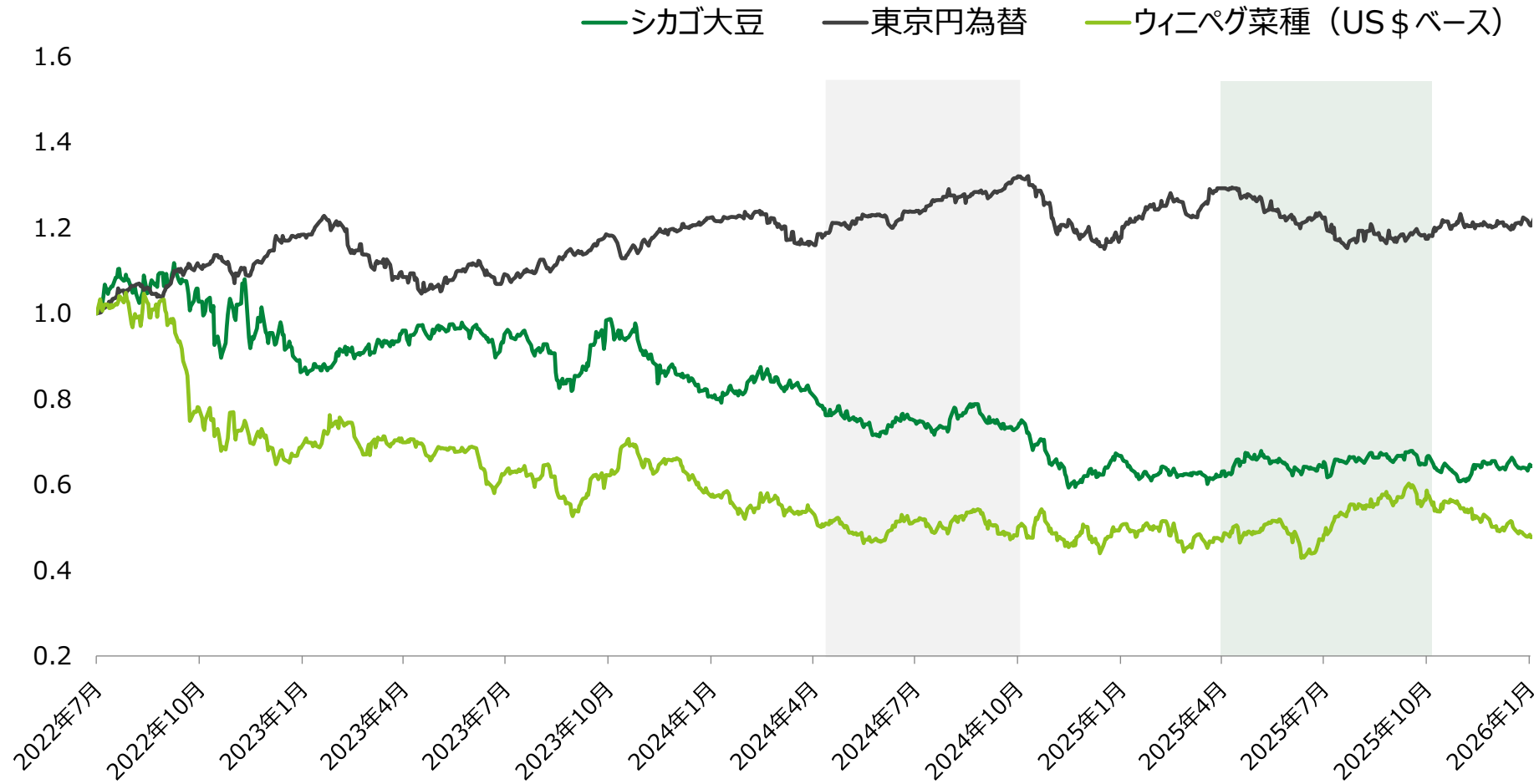
■ 油脂事業 営業利益増減分析詳細

	対前年 増減額	詳細
製品販売	+38.4	
販売価格	+29.9	汎用品: +27.8、高付加価値品: +2.1
販売重量	+8.5	汎用品: ▲0.4、高付加価値品: +8.9
参考) 高付加価値品	+11.1	家庭用: ▲14.3、業務用: +25.4
油脂コスト	▲61.4	
原料コスト	+52.7	大豆: +35.1、菜種: ▲17.7、為替: +16.7、購入油: +19.7、在庫影響他: ▲1.2
ミール販売	▲114.1	販売価格: ▲117.0、販売重量: +3.0
その他コスト	▲18.5	
1-ティリティ・資材他	▲0.8	1-ティリティ: +3.0、資材他: ▲3.8
工場固定費	▲3.0	
物流費	▲14.7	
一般経費他	+0.1	人件費: ▲0.5、広告費: +5.0、販売促進費: +0.2、その他: ▲4.6
油脂事業	▲41.4	

*為替（期中平均レート）
24年度:150円/1ドル
25年度予想:148円/1ドル

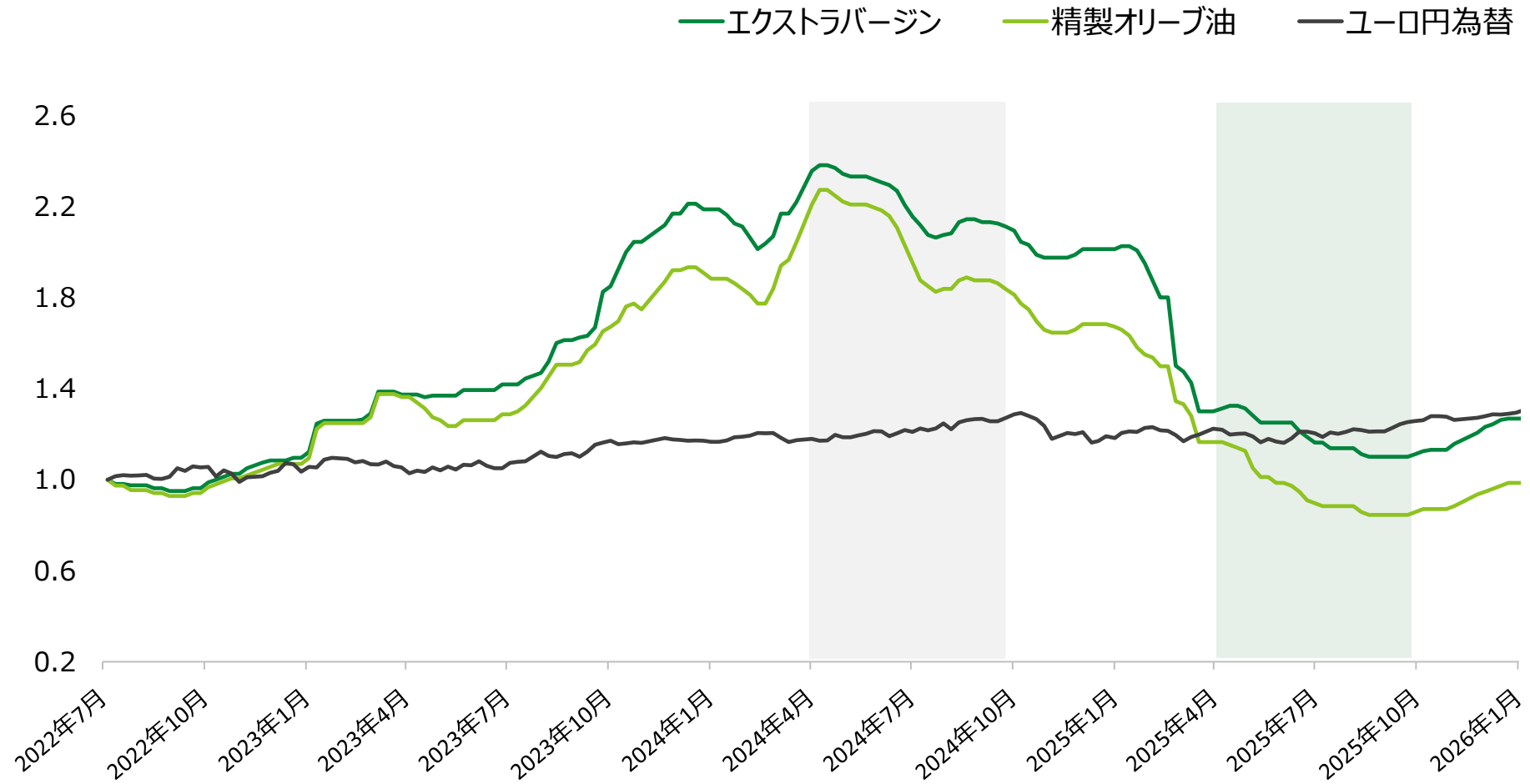
大豆、菜種、為替(米ドル)の相場動向

* 原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2022年4月を1とする(図中では2022年7月が1となる))

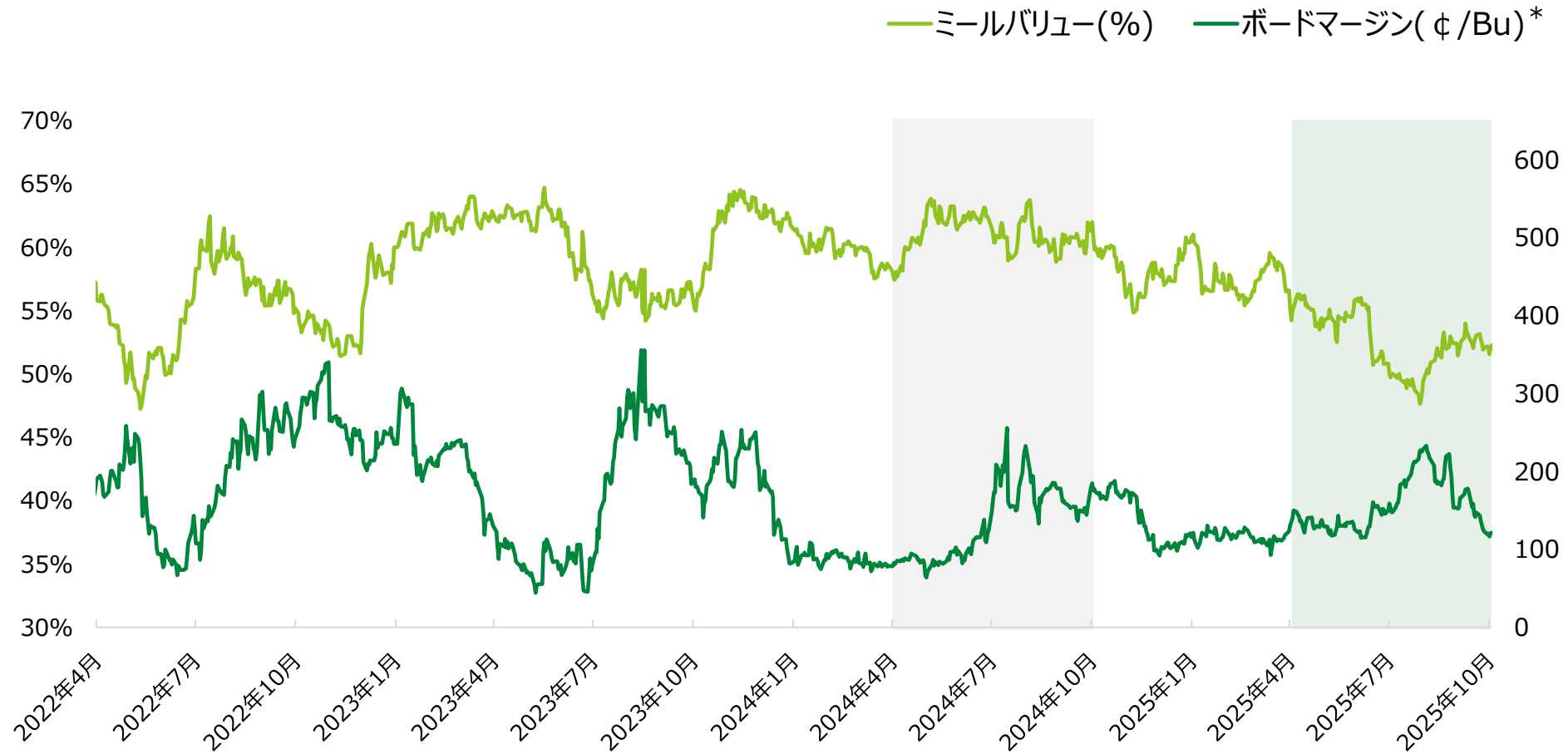


オリーブ、為替(ユーロ)の相場動向

* 原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2022年4月を1とする(図中では2022年7月が1となる))



ミールバリューの動向



* シカゴ大豆定期 1 ブッシェルから産出する大豆油と大豆ミールの価値の合計と大豆 1 ブッシェルの価格の差

